

#### 資料 4

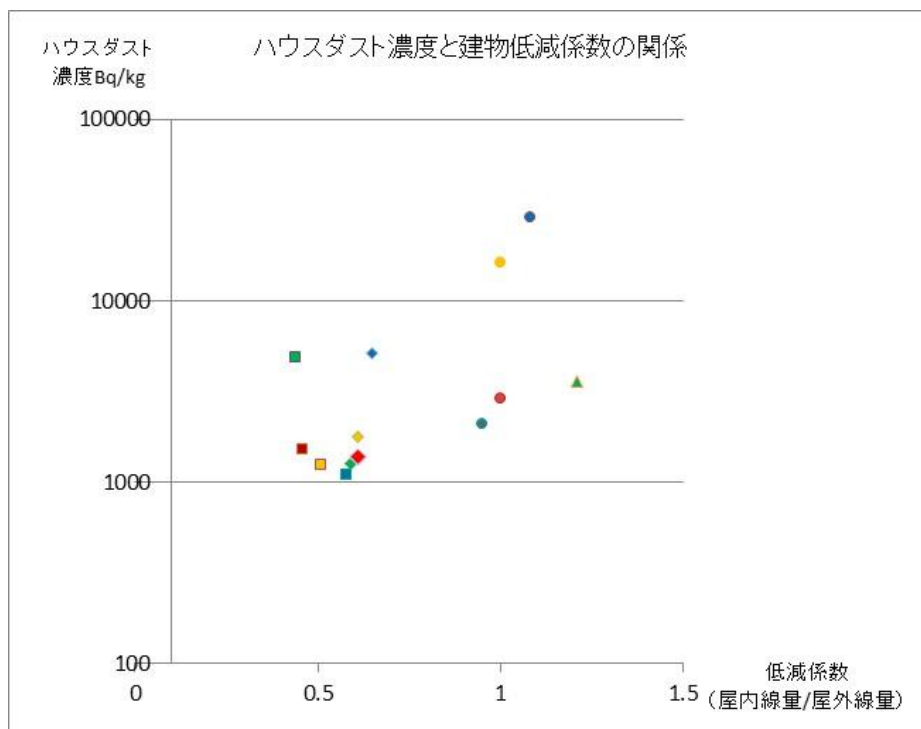
#### ハウスダストのセシウム濃度と屋内低減率の関係

2021年2月8日  
ちくりん舎 青木一政

環境省は個人の被ばく線量の推定にあたり建物による遮蔽の効果について低減係数を0.4(木造)～0.2(ブロックあるいはレンガ建て)としている<sup>1</sup>。南相馬・避難20ミリシーベルト基準撤回訴訟原告団はこれが正当な見積もりであるかどうかを原告の206軒でチェックした。その結果、低減係数は大きくばらついており0.44～1.56の範囲であった。低減係数が1以上であるということは屋外よりも屋内の放射線量が高いということである。

今回、低減係数とハウスダストの関係を調査した。図がその結果である。横軸は低減係数(屋内線量/屋外線量)である。縦軸はハウスダストのセシウム濃度(対数表示)である。バラツキは大きいハウスダストのセシウム濃度と低減係数に正の相関関係が見られる。

屋内に持ち込まれたセシウムを含む粉塵が屋内の放射線量を上昇させている可能性がある。



ハウスダストのセシウム濃度は周辺の土壌汚染濃度、家屋の構造、住人の人数や職業(屋外のホコリを持ち込み易いかどうか)などの要素が関係する。住民の被ばく評価にあたって一律の低減係数を使うのではなく個別の実態を考慮に入れる必要がある。また低減係数は外部被ばくのみでの評価となる。ハウスダスト濃度はホコリの吸入による内部被ばくにも関係する。したがって個別にこれらの実態を調査する必要がある。

<sup>1</sup> 遮蔽と低減係数 <https://www.env.go.jp/chemi/rhm/h28kisoshiryo/h28kiso-02-04-08.html>